

とに努めます。

3. 未来を考える

過去に学び、知ることによって、福祉向上に努め、目標に向かって未来を創造して行く視点で行動することに努めます。

「動かす」「使わず」「変えず」という「3つのず」と忍耐こそが大切であり、「積極的な行動をとらず」「予算は使わず」「従来からのものを変えず」が町活性化のために大切と説く人もいます。しかし町長就任以来、この「3つのず」から抜け出し、職員とともに能動的、積極的な取り組みの展開に努めてきました。行政の本質は住民福祉の向上にあり、この本質は不易でありませんが、手段は流行に順応したもの、つまり時代の流れに沿ったものでなくてはなりません。この不易流行の視点から、「意識を変え」「さまざまな展開に動き」「予算を確保し使い」を基本とし、住民福祉向上のために役場組織をあげて取り組んでいきます。

第2 ジャンプ2 自立へのまちづくり「目標を確認」

「写真の町」東川町の町づくりの目標は「ブライム・タウン（最高の町）づくり」であります。「日本一素晴らしき環境にある町づくり」を総称して「最高の町づくり」とか「日本一のまちづくり」と表現していますが、住民が自信と誇りをもって語ることができる「最高のまちづくり」を目指すものであります。「最少の経費で最大の効果」を基本として、住民が参加し運営に係ることが出来る「まちづくり」であります。

初めて町長に就任した当時、人口は確実に減っていく、高齢化で大変な時代が来る、町の財政が持たないとの声がありました。10年近い歳月が経ち、町はどのように変わっていったでしょうか。人口目標を概ね8千人、応援住民2千人と定め、「必ず達成できる」という住民一人ひとりの強い信念と町を誇りに語り、水滴石穿の取り組みが町の人口目標に近づき、応援住民や税収も増大してきています。「写真の町」東川町は着実に成長を続けてきています。「過去を知る・未来を考える」中から

中長期的な視点に立った行政の展開が重要であるとと考えています。

行政は評論集団ではなく、住民福祉向上を実行する、実現するための組織であり、未来に対して無駄のないように責任を持たなければなりません。そして「木を見て森を見ず」ではなく、町全体を見ながら、農村価値、文化価値、知力価値が付加されるような町づくりを進める必要があります。

あらためて町が目指す人口は概ね8千人を維持しつつ、応援住民2千人を確保し、ブライム・タウンの基本は「個性と人間愛があり、自立し、意義深い施策により楽しい町」「自然と人間が調和した町」「写真の町」東川町の未来の姿でありますことを確認し、ご理解をお願いしたいと思います。

第3 「愛」のあなまちづくり

今、農村地域社会が高齢化と離農化から疲弊化してきている現実を目を向けなければなりません。東川町内には4つの小学校がありますが、農業者世帯の子供が小学校へ通

っている児童数は極めて少なく、農村から若者が消え、その後の対策が功を奏していない理由を検証し、知ることが大切であります。

過去に学び、過去を知り、農業を中心とする地域産業が尊敬され、「自国で生産、製造するものを消費することが基本である教育」が必要であると考えています。合わせて、長寿化により高齢者が生き生きと地域づくりや人づくり（教育）に係ることが出来る機会づくりも重要であります。

私たちは未来を担う子供たち、そして地域の発展のために尽くされた高齢者のために、今やれることを確実に実現し、農村のもつ素晴らしい意義を都市等に向かって発信し、行動する必要があります。町が持続できるか否かの大きな要因は、地元の産業を後継する人々がいるか否かにかかっています。各地域で一定の行政水準が維持され、更に先人から120年近くに渡り引き継いできた「東川町」の名前を消さないため、未来を見つめ、目標に向かって住民が心を一つにして頑張っていく時だと考えています。

教育委員会と十分連携し、

に相当の負荷がかかってくるが、職員一人ひとりのチャレンジ精神と公務員としてのプロ意識を発揮し、最大限活用を図り、健全な財政運営と住民福祉の向上に努めます。

4. 有利な起債（借金）の利活用促進

自治体の借金は、住民負担の世代間の公平を確保するための調整、一般財源の補完的役割、国の経済政策との調整などを目的として起債することが法律で認められています。起債の中には国が毎年の元利償還額を全額を負担するもの、80%、70%など国が負担するものが多く入っています。健全財政を維持しながら住民福祉向上のため必要な社会資本整備は、いかに有利な起債をするかにかかっています。総額だけを見て語るのには「木を見て森を見ず」に等しいものと言わざるを得ません。実質的に住民税等から負担する額（実質負担）の多寡が重要であり、国庫負担のある有利な起債の利活用促進に努め、社会資本の充実に努めます。

起債に当たっては健全財政維持のためのガイドラインを定め、実質負担増の抑制に努

国際的な視点に立ち、「郷土愛、人間愛、隣人愛」のある「東川らしさの教育と生きがいづくり」を展開できるように努めます。

第4 行政課題を整理選択と集中による「チャレンジし動く」まちづくり

公務員にとって「動かす」は既に終わっていると考えています。役場は何もしないで耐え忍ぶことを住民へ普及するために存在するのではなく、自ら創意工夫を行い、国や道などの制度を最大に活用し、住民福祉向上のため「動く」組織でなければなりません。行政課題を整理し、選択と集中を基本として行政執行を図って行きます。平成24年度は特に、先に掲げています5つの基本となる柱の中から以下の3点を選択し、集中した予算執行に努めます。

- 1. 未来に向かって産業基盤を強固なものとする
2. 少子高齢化時代に逞しく学び、安心して生活できる空間づくりを進める
3. 「最少経費で最大効果」を目指した行政運営を図る

第7 終わりに「今こそ心をいっしょに抱かす」

国政も地方の行政も大きな転換期を迎えています。既成のものへの保身に傾いていたのでは持続性を失ってしまう。改革しなければならぬもの、守らなければならぬもの、しっかりと分別し、住民が心を一つにして、大きな力として同じ方向に向かって進んで行くことが行政、町づくりにとって最も大切なことであると考えています。

行政機構、受益と負担のあり方、自主財源の確保、少子高齢化への対応など課題は山積していますが、一つひとつ確実に「最少の経費で最大の効果」が発揮できるように住民並びに議会の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

なお、具体的な執行内容については別掲させていただきます。

平成24年3月6日

東川町長 松岡市郎

また、次の事項についてチャレンジしていきます。

〔24年度のチャレンジ重点〕

- ア. 東川小学校等の建設着手
イ. 中学校環境整備の促進
ウ. 小学校跡地利用計画の樹立
エ. ラガードルフ（合宿の里）構想の促進とNTC指定活動の強化
1. キトウシクロスカントリーコース設計と整備促進
2. 旭岳クロスカントリーコース改修の設計と整備促進
オ. 高齢者の安心居住相談活動の充実
カ. 長寿化に向けた高齢者社会参加活動の支援

- 1. 働く機会の確保
2. マーケット展開の推進
3. ワイン製造化の検討
キ. 逞しい職員の研修と育成
ク. 町の価値創造への挑戦
1. クリエイティブ・シティへの申請（写真文化の創造農村）
2. モンド・セレクションへの申請（新大雪旭岳源泉（仮称））
ケ. ヨーロッパに学ぶ環境保全と町づくりの推進

第5 町内消費の純増への取り組み

中心市街地のシャッター化が進行していますが、ここ数年若者などが営む店が急激に増え、互いに情報発信を図り、「人の動き」の活発化が図られてきており、町の価値向上に大きく貢献しています。より多くの人々が町の魅力に触れることが出来るよう東川町商工会、ひがしかわ観光協会、東川振興公社の能動的、積極的な活動の支援を図って行きます。

- コ. 定住人口8千人達成への行動とひがしかわ株主の拡大
サ. 北工学園の日本語学科設立先行支援
シ. 全国規模イベントへの支援
1. 小さくても輝く自治体フォーラム
2. ピンホールカメラ学会総会
3. その他
ス. 地籍調査着手
セ. 国営緊急農地再編整備事業地区調査着手
ソ. 地域自治振興会と協働活動の支援と行政区再編の推進

第6 健全な財政運営

健全な財政運営は「入るを収る」「歳入を語り確保すること」が基本であります。以下を重点として健全な財政運営に努めます。

- 1. 確実な賦課徴収
町の徴収金を適切に賦課し、公平確保の視点から確実に徴収を図ります。
2. 受益者負担の定着化
受益者がサービスを享受する場合において負担することが基本であるとの視点に立ち、協力金確保を含めて、適正な負担を求めていきます。
3. 国や北海道などの制度利活用の促進
民主党政権に代わって、各種の施策が補正予算で出てきますが、黙って予算が来るのを待つていると「時間と財源」が通り過ぎていきます。職員

また雇用が確保され、地域経済の発展を支える上から行政も従前同様に住民福祉向上の視点から消費を掘り起こし、「地元発注」「地産地消」「情報発信」の推進を図っていきます。